

NIIGATA UNIVERSITY

GRADUATE SCHOOL OF MODERN SOCIETY AND CULTURE



新潟大学大学院
現代社会文化研究科

大学院(博士前期・後期課程)案内
2019

学びつづける力

新潟大学大学院 現代社会文化研究科

大学院(博士前期・後期課程)案内

GRADUATE SCHOOL OF
MODERN SOCIETY AND CULTURE
NIIGATA UNIVERSITY

CONTENTS

学びつづける力	1
基本理念・研究科の特色	2
学位取得までのプロセス・支援	4
専攻紹介	
博士前期課程	6
現代文化専攻	
社会文化専攻	
法政社会専攻	
経済経営専攻	
博士後期課程	10
人間形成研究専攻	
共生文化研究専攻	
共生社会研究専攻	
入学試験(博士前期課程)について	16
入学試験(博士後期課程)について	17
キャンパスライフ～在学生からのメッセージ～	18
修了生の声	20



大学院現代社会文化研究科長 原直史

21世紀もその1/5に近づこうとしています。世界はますます混沌としているように思えます。20世紀の2度の世界大戦を経験し、人びとは再びその惨禍を味わうまいと、幾多の仕組みを作り上げてきましたが、そうした努力をあざ笑うかのように、武力・暴力で問題を解決しようという動きは跡を絶ちません。インターネットを始めとする情報通信技術の進歩は、世界中の人びとの相互理解を飛躍的に高めるものである反面、ネット上にはヘイトの言説が満ちあふれています。開発は格差と貧困を生み、貧困は差別と憎悪の温床となっています。

もはや文明や科学技術は人びとを幸せにしないのではないか。そんな雰囲気広がりが、反知性的な言説にも共感が広がっています。しかし、人類の課題は人類自らが解決しなければならず、それは人類に与えられた知性を駆使することでは、成し遂げられないのではないのでしょうか。

大学が一般的な教育課程における最終段階であるとするれば、Graduate Schoolという名称からもわかるように、大学院はその先にあるものです。一般的な教育課程を越えて、さらに学び続けることを志した人びとにとって、修士や博士の学位の取得はもちろん直接の目標ですが、それで終わるのではなく、生涯にわたって学び続け、研究を重ね、知性を磨いていく力を身につけること、それこそが大学院での学びの大きな目的でしょう。

新潟大学大学院現代社会文化研究科は、人文科学、社会科学、教育科学にまたがる幅広い専門分野の210名もの教員を擁する、文系の総合大学院です。そうした利点を活かして、学生各自の専門分野を深めるとともに、それぞれのテーマに対する学際的アプローチから、課題探求、課題解決の能力を磨いていくためのカリキュラムを用意しています。多くの留学生や、社会人の経験ある学生など、多様な学生との交流もまた、広い視野を獲得するうえでの貴重な経験となるでしょう。

新潟大学大学院現代社会文化研究科では、「現代性」と「共生」をふたつの理念として掲げています。この理念のもと学んだ学生が、生涯にわたって磨き上げた知性を駆使することで、現代社会の諸課題を解決に導き、多様な文化的背景をもつ人びとが共生し、さらに人類と自然が共生する、幸福な未来を作り上げていくことを、願ってやみません。

基本理念・研究科の特色

新潟大学大学院現代社会文化研究科アドミッション・ポリシー

新潟大学大学院現代社会文化研究科の各専攻は、下記の目的によって教育研究を進めています。このような教育研究目的に応じて専門職業人・研究者となる意欲と能力を有した人物を募集します。

博士前期課程

現代文化専攻は、社会や文化に関する課題を、メディア文化、情報社会、哲学・心理学及び生活健康行動科学の観点から発見・探求する能力を涵養し、現代文化についての専門的知識と課題発見・探求能力を有する専門職業人及び研究者を育成します。

社会文化専攻は、社会や文化間の相互理解に関する課題を、世界の言語・歴史・文化の観点から発見・探求する能力を涵養し、社会や文化についての専門的知識と課題発見・探求能力を有する専門職業人及び研究者を育成します。

法政社会専攻は、法制度及び行政に関する課題を、共生社会の構築という観点から発見・探求する能力を涵養し、法政社会についての専門的知識と課題発見・探求能力を有する専門職業人及び研究者を育成します。

経済経営専攻は、グローバル化が進む現代社会の重層的かつ複雑な経済に関する課題を、経済学・経営学の観点から発見・探求する能力を涵養し、経済経営についての専門的知識と課題発見・探求能力を有する専門職業人及び研究者を育成します。

博士後期課程

人間形成研究専攻は、家庭・学校・社会等における人間形成に関する課題を、生活環境・文化・教育の観点から分析・解決する能力を涵養し、人間形成についての高度な専門的知識と課題解決能力を有する高度専門職業人及び研究者を育成します。

共生文化研究専攻は、世界の諸地域の言語・歴史・文化に関する課題を、相互理解と相互発展という共生の観点から、多角的・総合的に分析・解決する能力を涵養し、日本、アジア、欧米等の言語・歴史・文化についての高度な専門的知識と課題解決能力を有する高度専門職業人及び研究者を育成します。

共生社会研究専攻は、国際社会や地域社会における法・政治・経済等のシステム及び制度に関する課題を、相互理解と相互発展という共生の観点から、多角的・総合的に分析・解決する能力を涵養し、法学、経済学の高度な専門的知識と課題解決能力を有する高度専門職業人及び研究者を育成します。

基本理念

課題探求能力の育成

現代社会文化研究科の基本理念は「課題研究能力の育成」です。

現代の社会は、自己責任型社会へ急速に転換しつつあります。自己責任型社会では、時代の変化に、私たちが主体的に対応できる能力が求められます。それには、自分で学ぶ能力を基礎にして、将来の課題を探求し、幅広い視野から総合的な判断を下すことができる課題探求能力を習得する必要があります。

2つの理念

〈現代性〉と〈共生〉

本研究科の名称は、「現代」と「社会文化」によって構成されています。この名称は、2つの理念を表現しています。

理念のひとつは〈現代性〉です。〈現代性〉とは、課題設定の方法についての理念を示します。学生は、社会と文化の全領域から自分の課題を設定し、その課題の解決の仕方を、「現代」の問題と関連付けて研究します。

理念のふたつ目は〈共生〉です。〈共生〉とは、課題解決の方向性を示す理念です。「現代」の課題を解決するためには、社会と文化について、人間と人間、人間と自然が共存できるシステムを構想しなければなりません。その理念が〈共生〉です。

6つの特色

「基本理念」と「2つの理念」を実現するために、本研究科は、6つの特色を備えています。

1 課題探求型の総合型大学院

人文科学・法学・経済学・教育科学にまたがる多数の教員を擁しています。学生は、自分の研究課題に沿う指導を受けることができます。

2 一人ひとりに合わせた指導体制

学生一人ひとりに履修指導委員会(主指導教員1人・副指導教員2人によって構成されます)を設け、学生の研究課題に応じた履修指導と論文指導を行います。

3 専門型の博士前期課程、学際型の博士後期課程

課題を探求するには、専門性と学際性との調和のとれた能力を有する必要があります。

博士前期課程では、各自の課題を探求するのに必要な専門的学力の習得に努めます。そのことから、専門性を主・学際性を副とするカリキュラムを用意しました。

博士後期課程では、課題解決能力の獲得を目指します。そのことから、学際性を主・専門性を副とするカリキュラムを組みました。教員・学生による研究プロジェクトにも参加します。

4 課題に応じた学位

各自の研究課題に応じた学位を取得できます。博士前期課程では、修士(文学)、修士(法学)、修士(行政学)、修士(経済学)、修士(経営学)、修士(公共経営学)、修士(学術)の7種類から、いずれかの学位を取得できます。

博士後期課程では、博士(学術)を基本としつつ、博士(文学)、博士(法学)、博士(経済学)、博士(教育学)のいずれかから取得できます。

5 社会人や外国人にも開かれた大学

社会人や外国人を積極的に受け入れるために、入学試験では、社会人や外国人を対象にした特別入試を実施しています。また、社会人学生に対しては、必要に応じて、夜間授業等を開講しています。

6 学位取得に向けた履修体制

博士前期課程では2年、博士後期課程では3年の標準修業年限で学位を取得する履修体制を組んでいます。短期修了(修業年限の特例として、優れた研究業績を上げた者に適用)や長期履修の制度もあります。

学位取得までのプロセス・支援

学生は学位論文を提出して学位を取得します。学位取得までのプロセスは、博士前期課程、博士後期課程それぞれ下記のとおりです。

博士前期課程

博士前期課程では、6～9頁に掲載した授業科目（選択科目）のほかに、「課題研究Ⅰ」「課題研究Ⅱ」「課題研究Ⅲ」「総合演習」を必修科目として設けています。さらにインターンシップ、他大学院の授業科目の履修や入学前の既修得単位など（研究上有益と認められる場合）を認定しています。専門的学力の習得に重きを置いたカリキュラム編成で30単位以上を修得します。



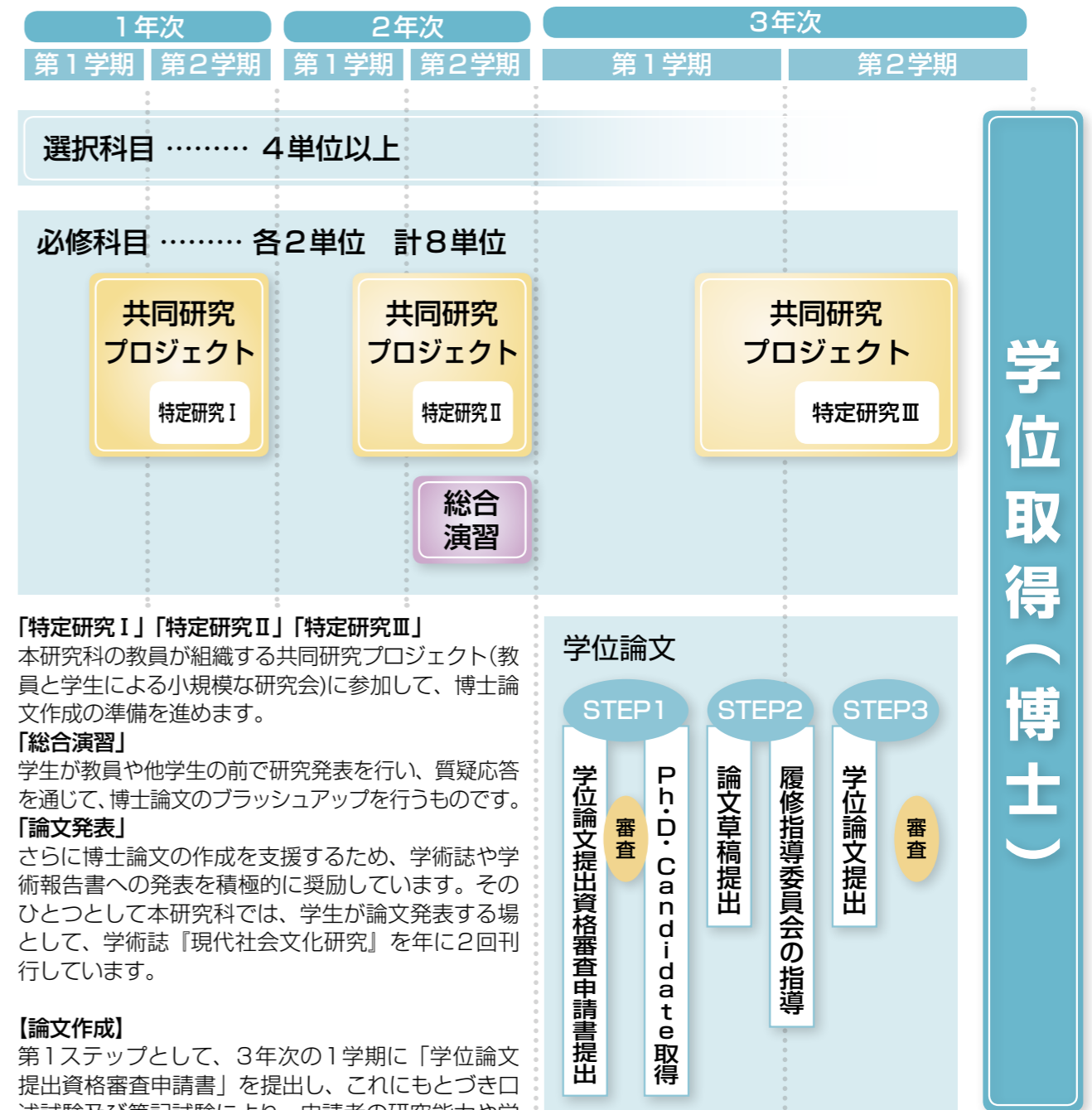
【論文作成】

2年次の1学期に「学位論文作成計画書」を提出し、「学位論文作成資格審査」において資格を取得したのちに「学位論文」を提出します。「学位論文」の審査や口述試験により、学位にふさわしい能力を有しているかどうか審査され、合格と判定されると、修士の学位が授与されます。

※学位の種類は、各専攻紹介の頁を参照

博士後期課程

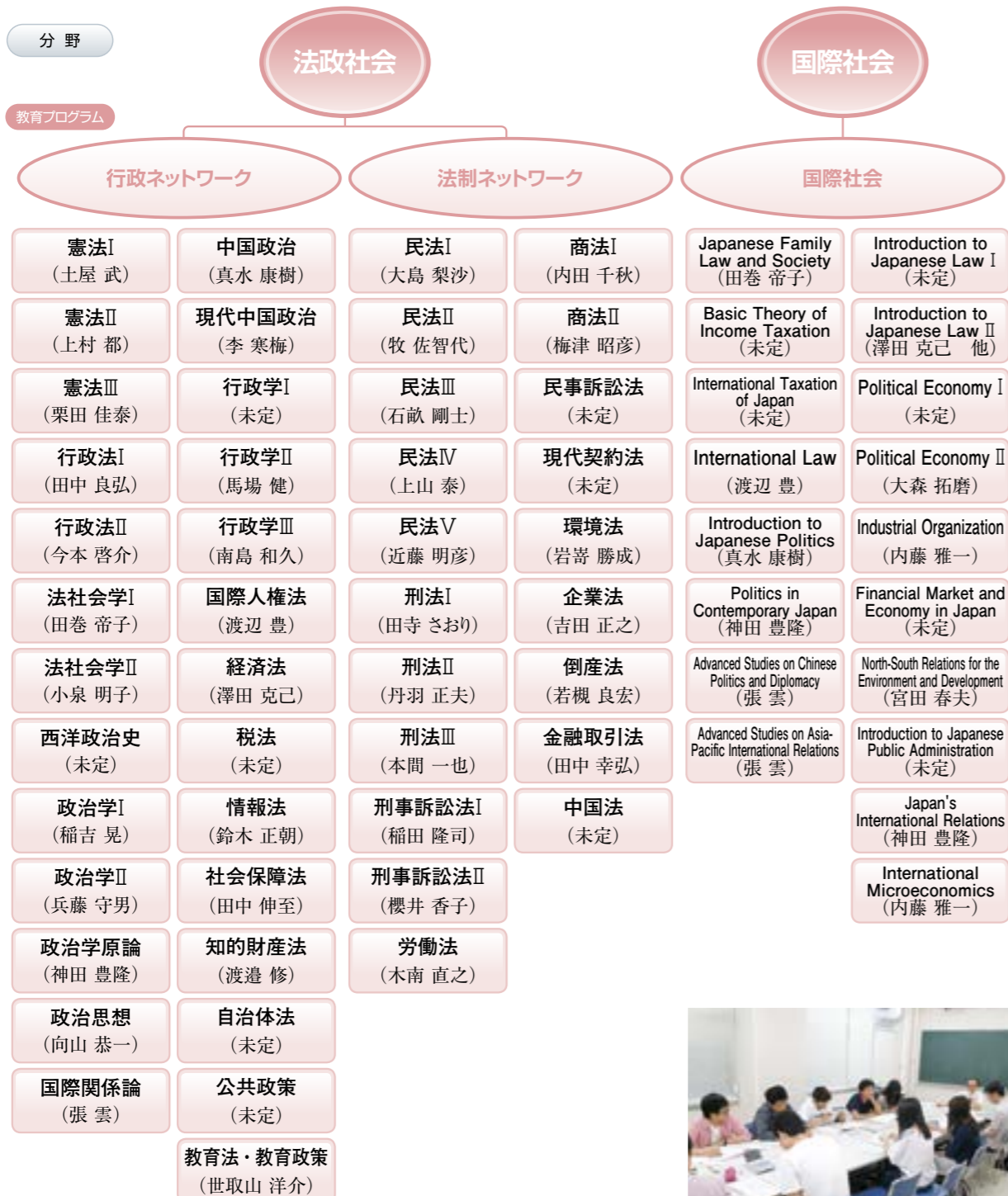
博士後期課程では、10～15頁に掲載した授業科目（選択科目）のほかに、「特定研究Ⅰ」「特定研究Ⅱ」「特定研究Ⅲ」「総合演習」を必修科目として設けて、専門的学力を獲得することを目標としています。



博士前期課程 【法政社会専攻】

法政社会専攻は、法制度及び行政に関する課題を、共生社会の構築という観点から発見・探求する能力を涵養し、法政社会についての専門的知識と課題発見・探求能力を有する専門職業人及び研究者を育成します。

取得できる学位 修士(法学)、修士(行政学)、修士(学術)



博士前期課程 【経済経営専攻】

経済経営専攻は、グローバル化が進む現代社会の重層的かつ複雑な経済に関する課題を、経済学・経営学の観点から発見・探求する能力を涵養し、経済経営についての専門的知識と課題発見・探求能力を有する専門職業人及び研究者を育成します。

取得できる学位 修士(経済学)、修士(経営学)、修士(公共経営学)、修士(学術)



専攻紹介

博士後期課程

博士後期課程 【人間形成研究専攻】

人間形成研究専攻は、家庭・学校・社会等における人間形成に関する課題を、生活環境・文化・教育の観点から分析・解決する能力を涵養し、人間形成についての高度な専門的知識と課題解決能力を有する高度専門職業人及び研究者を育成します。

取得できる学位 博士(学術)、博士(文学)、博士(教育学)

分野

人間形成文化



現代教育文化



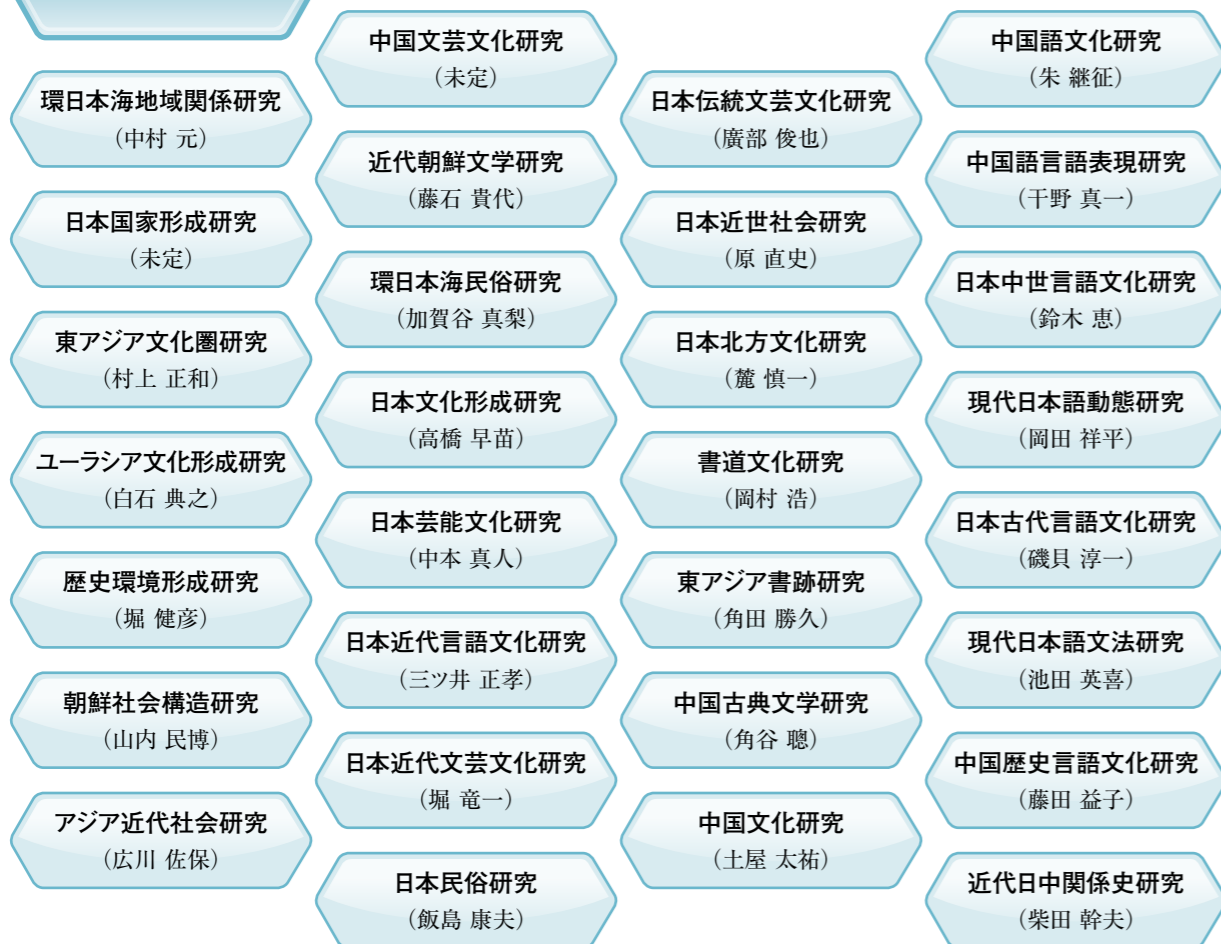
博士後期課程 【共生文化研究専攻】

共生文化研究専攻は、世界の諸地域の言語・歴史・文化に関する課題を、相互理解と相互発展という共生の観点から、多角的・総合的に分析・解決する能力を涵養し、日本、アジア、欧米等の言語・歴史・文化についての高度な専門的知識と課題解決能力を有する高度専門職業人及び研究者を育成します。

取得できる学位 博士(学術)、博士(文学)

分野

地域共生文化



国際共生文化



博士後期課程 【共生社会研究専攻】

共生社会研究専攻は、国際社会や地域社会における法・政治・経済等のシステム及び制度に関する課題を、相互理解と相互発展という共生の観点から、多角的・総合的に分析・解決する能力を涵養し、法学、経済学の高度な専門的知識と課題解決能力を有する高度専門職業人及び研究者を育成します。

取得できる学位 博士(学術)、博士(法学)、博士(経済学)

分野

地域共生社会



国際共生社会



入学試験について

現代社会文化研究科の学生募集は、一般入試、社会人特別入試、外国人留学生特別入試の3区分に分けて行います。詳細は「[学生募集要項](#)」をご確認ください。(入学試験に関する問い合わせ先：人文社会科学系大学院学務係 025-262-6166・6826)

博士前期課程

選抜方法

入学者選抜方法の概要は以下のとおりです。

一般入試

筆記試験及び口述試験で選抜します。

- 筆記試験は、外国語科目及び専門科目1科目、又は専門科目2科目とします。
- 筆記試験(外国語科目、専門科目)の問題は「分野」ごとに出題されます。
- 口述試験は、出願書類を主な資料とします。

社会人特別入試

筆記試験及び口述試験で選抜します。

- 筆記試験は小論文です。小論文は「研究計画書」を参考にして出題されます。
- 口述試験は、出願書類を主な資料とします。

外国人留学生特別入試

筆記試験及び口述試験で選抜します。

- 筆記試験(専門科目1科目)の問題は「分野」ごとに出題されます。
- 口述試験は、出願書類を主な資料とします。

※社会文化専攻国際日本文化分野については、主に外国人留学生を対象に、入学者選抜を別途行います。同分野の入学希望者は、「学生募集要項」請求の際に、その旨お申し出ください。(10月入学者対象)

※経済経営専攻経営会計分野については、筆記試験を免除される場合があります。「学生募集要項」に示した条件をご覧ください。

入学定員

専攻名	入学定員
現代文化専攻	10人
社会文化専攻	20人
法政社会専攻	10人
経済経営専攻	20人
計	60人



2019年度入試予定

	入学時期	入試予定日	募集要項配布時期
9月入試	2019年4月	2018年9月14日(金)	2018年7月上旬
2月入試	2019年4月 2019年10月 ※選択して受験	2019年2月中旬	2018年12月上旬
7月入試	2019年10月	2019年7月上旬	2019年5月中旬

※変更する可能性がありますので、詳細は現代社会文化研究科HPで必ずご確認ください。
※2月入試までの合格状況を考慮して、2次募集(3月中旬実施)を行うことがあります。

博士後期課程

選抜方法

入学者選抜方法の概要は以下のとおりです。

一般入試

「修士論文」を提出した者については、書面審査、筆記試験及び口述試験で選抜します。

- 書面審査は、「修士論文」について審査します。
- 筆記試験は、外国語科目1科目を課します。
- 口述試験は、「修士論文」及び出願書類を主な資料とします。

「修士論文」を提出できない者については、筆記試験及び口述試験で選抜します。

- 筆記試験は、専門科目(志望する専攻分野に関する1科目)及び外国語科目1科目を課します。
- 口述試験は、受験した専門科目及び出願書類を主な資料とします。

社会人特別入試 及び 外国人留学生特別入試

「修士論文」を提出した者については、書面審査及び口述試験で選抜します。

- 書面審査は、「修士論文」について審査します。
- 口述試験は、「修士論文」及び出願書類を主な資料とします。

「修士論文」を提出できない者については、筆記試験及び口述試験で選抜します。

- 筆記試験は、専門科目(志望する専攻分野に関する1科目)を課します。
- 口述試験は、受験した専門科目及び出願書類を主な資料とします。

いずれの場合も、入学後の教育研究に必要とする外国語能力(外国人留学生にあっては日本語能力)について審査することがあります。

進学者選考

新潟大学大学院修士課程、博士前期課程又は専門職学位課程を修了見込みの者は、進学者選考により選考されます。詳細は「[進学者選考要項](#)」により通知しますので、大学院学務係へお問い合わせください。

入学定員

専攻名	入学定員
人間形成研究専攻	6人
共生文化研究専攻	7人
共生社会研究専攻	7人
計	20人

キャンパスライフ

～在学生からのメッセージ～

現代社会文化研究科に在学中の学生の様子をご紹介します



博士前期課程

社会文化専攻 アジア社会文化分野 2年次生
貝沼 良風 さん

私は地理学の視点から、現在日本の地方都市で催されている祭りの成立要因を明らかにするため、主に踊りの担い手などの参加者への聞き取り調査によるデータをもとに研究をしています。

私は当初大学院進学を考えていませんでした。しかし、卒業研究で研究対象とした事例とは異なる視点で日本の祭りを捉え、自分の視野を広げたいという気持ちがあり、大学院進学を決めました。そして、大学院を選定する中で、自分の関心のある分野の研究者がおり、複数の先生と近い距離で研究を進め、深い議論ができるような環境が整っている新潟大学現代社会文化研究科を選びました。

大学院生として新たに始めた学生生活では、今まで関わりがなかった分野を専攻している学生と共に講義を受けることが多く、互いの研究テーマや関心について話し合う機会を得ることができました。その中で、自分に足りない視点を知り、一度頭の中を整理して研究を進められたことは、大変意義があったと感じています。また、現代社会文化研究科には多くの留学生や社会人の学生も在籍しており、自分とは異なる経験から生まれる考え方に強い刺激を受けながら研究を行うことができます。

大学院進学を目指している皆さんは、どのような軸で大学院を選んでいるのでしょうか。皆さんそれぞれの考え方があると思いますが、私の軸は大学院博士前期課程の2年間を過ごしてよかったと考えられるかどうかでした。先生や他の学生と深い議論ができるのか。また、修了後の進路をしっかりと相談でき、考えることができるか。そういった不安を解消し、納得できる学生生活を過ごすことができる環境がこの研究科には整っています。ぜひ、新潟大学現代社会文化研究科で充実した学生生活を送ってください。



講義以外の時間には、研究室で文献を読んだり、コンピュータでデータを整理するなどして、効率的に研究を進めています。



週に1回、図書館学習サポーターとして勤務し、学生のレポート作成や文献探索をサポートしています。自分の知識を活かすことができ、また、コミュニケーション能力の向上にもつながっています。



博士後期課程

人間形成研究専攻 人間形成文化分野 2年次生
崔 旭 さん

私は、日中両国の小学校における保健教育及び保健管理システムの比較について研究しています。博士前期課程在学中に、日本の保健教育の特色を理解する中で、研究意欲や関心がさらに高まったことから、博士後期課程への進学を志望しました。現在は、日中の保健教育の差異をより多くの人々に伝えることを目的とし、

保健教育の比較を研究対象として捉え、論文を執筆したり、学外の学会に参加したりしています。

博士後期課程の講義は少人数制のため、講義中に質疑討論の時間が十分に確保されています。特に、必修科目である特定研究や総合演習では、研究経験が豊かな先生方と議論することで、新たな視点から研究を見つめ直すことができます。博士論文を執筆するうえで、時には厳しい指摘を受けることもありますが、この過程も研究から得られる良い経験となります。

また、新潟大学現代社会文化研究科には、日本人の学生、社会人学生、世界各国の留学生が在籍しています。自分とは異なる研究分野の研究者と交流する機会が数多くあり、自分の研究に関し異なる角度からアドバイスがもらえることは、大きなメリットであると思います。さらに、在学中の先輩や、研究科を修了した先輩が担当する講座に参加することで、自分の進路や将来像をより明確なものにすることができます。このように、異文化交流を通して自分の視野を広げたり、学生生活で得た知識を活用したりすることで、充実した研究生活を送っています。

これまでの研究生活を通じて、多くの研究者と接すること、研究に対する真剣な態度を常に持つこと、自分の信念を捨てず、社会において実用的な研究をすることが研究者の責任であると考えられるようになりました。これからも、新潟大学現代社会文化研究科での研究生活を享受し、研究者として理想を追い求める人生を過ごしたいと思っています。



研究室が用意されており、整った環境で研究を進めることができます。同じ研究室の学生と、研究について意見交換することもあります。



毎週、ゼミを行っており、先生やゼミ生からアドバイスをもらうことで、自分の研究をブラッシュアップしています。

殷 志强

地域社会形成論専攻（2012年3月修了）

※改組前の専攻

現職：首都師範大学歴史学院 講師

10年前、日本への憧れや青春の理想を抱いて新潟にやって来て、約5年間にわたる生活を始めた。そして芳井研一先生を始めとする諸先生のご指導で博士の学位を取得し、現在は日中関係に関する教育や研究に従事している。

留学生活では、やはり諸先生から受けたご指導が最も忘れがたい。先生方は如何に考え、如何に分析するか、つまり、純粋に学問を求める道や、「自由な思想、独立した人格」の真の意味が分かるようにご指導くださった。このことは私にとって生涯を通じて見做い、実践すべき目標である。また思い出するのは、お世話になった日本の友人たちの姿である。彼らを通じて、日本の社会や日本人の考えを深く知ることができた。このような草の根交流が中日友好につながると信じている。さらに、新潟での楽しい生活も忘れがたい。海風に吹かれて眺めた日本海の夕日、地酒を飲みながら満喫した海の幸、そして雪が舞う中で入った暖かい温泉、すべてが記憶の奥の宝物になっている。

ですから皆さん、学問に専念すると同時に友人と交流し、新潟の美食・美酒や温泉を堪能し、有意義な学生生活を過ごせるよう心から祈っています。



修了生の声



現代社会文化研究科修了生の研究業績の一例



人文社会科学系棟



現代社会文化研究科棟



※JR新潟駅から新潟大学までの交通案内

JR	バス(新潟交通バス)	タクシー
越後線 JR新潟駅 ↓ (20分) 新潟大学前駅下車 徒歩15分	新潟大学行き JR新潟駅 (万代口駅前バスターミナル) ↓ (45分) 新潟大学正門前下車 徒歩1分	JR新潟駅 ↓ (30分) 五十嵐地区

新潟大学大学院 現代社会文化研究科

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地
 GRADUATE SCHOOL OF MODERN SOCIETY AND CULTURE
 NIIGATA UNIVERSITY
 8050,Ikarashi 2-no-cho Nishiku, Niigata City 950-2181, Japan
 お問い合わせ
 人文社会科学系大学院学務係(人文社会科学系棟D棟1階)
 TEL:025-262-6166・6826
 FAX:025-262-7457
 E-mail:jimugen@cc.niigata-u.ac.jp
 Web page URL:http://www.gens.niigata-u.ac.jp/

